

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700367
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム 瀬戸あいじゅ
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町川之浜594
自己評価作成日	平成 22 年 6 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年7月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

伊方町の小学校跡地に建っており、近くに保育園があります。海も近く、自然に囲まれています。平屋のホームなのでユニット間が自由に行き来できて、普段から交流をもっています。ホームは総合福祉施設の中の1事業所であり、これらの施設と合同で、行事が行なわれたり、随時の看護支援が、得れる等、日常的に連携がとれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海を一望できる高台にある総合福祉施設の1階に、デイサービスと並んで2ユニットのホームがある。両ユニットの利用者は仲が良く、ユニット間を行き来し楽しむ等の交流がある。介護度の軽度の方が多く、できる事は体調等を考慮しながら手伝ってもらい、役割を持って生活している。ホームの取り組みとして、職員と利用者が一緒に同じ食事を摂ることや、運営推進会議の議題の年間計画の作成すること、ホーム独自の避難訓練を行うことなど、新しい取り組みが始まっている。デイサービス利用者との交流を持つなど、総合福祉施設の利点を活かしながら運営が行われている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム瀬戸あいじゅ

(ユニット名) 汐風

記入者(管理者)

氏 名 楠 千鶴江

評価完了日 平成22年 6月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員で話し合って決めた理念を共有し実践に繋げていけつよう運営推進会議などで地域の方々に理解・協力が得れるように努めている。	
			(外部評価) 職員は毎朝、朝礼で法人の基本理念を唱和している。ホームには、職員で話し合っ作られた具体的な理念を掲げ、さらに職員一人ひとりが半期ごとの目標を立て、日々意識できるようスタッフルームに掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的な交流はあまり出来ていないが、施設全体での行事で地域の人との交流がある。	
			(外部評価) 施設全体で行う運動会や夏祭り等の行事には、地元の婦人会や保育所など地域の方の参加が有り、利用者やその家族も参加している。利用者は保育所の芋掘りに参加したり、地域の公園で行われる芋炊きに出かけている。近々地域で行われる“ちりめん祭り”を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 少しずつ家族様には理解していただいているのではないと思われる。地域については、運営推進会議において理解してもらえるよう努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、近況報告を行ったり、取り組みのテーマに沿って話し合ったりして、運営推進委員からの意見、家族の要望など聞いている。それを職員会で報告し、話し合いを行いサービスの向上につなげている。	
			(外部評価) 運営推進会議の議題年間計画を立て、計画的に開催している。会議後には利用者によるハンドベル演奏会や朗読会に参加してもらうなど、出席者がホーム内で利用者と一緒に過ごす時間をつくり、生活の様子を知ってもらうための新しい取り組みを始めている。	運営推進会議への新しい取り組みが、サービスに活かされる事を期待すると共に、会議出席者が固定化されているので、幅広い意見が取り入れられる様にメンバー構成にも着目して欲しい。運営推進会議議事録には、出席者の名前も記入しておくとういのではないかな。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 入居者の入退居や介護認定の更新の際、情報を共有したり、事故防止などの取り組みで、連携を取ったりしている。介護相談員の受け入れや意見交換なども行なっている。また、ケアマネ連絡会等で情報を交換しあっている。	
			(外部評価) 相談のために役場担当課に出向きアドバイスを貰う機会や、運営推進会議で役場担当者から情報提供を受ける機会もあり、円滑に意見交換ができる関係が構築されている。毎月介護相談員の受け入れを行い、利用者とは顔馴染みの関係となっている。介護相談員と役場とホームが情報を共有し連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止マニュアルを作成し皆で取り組んでいる。玄関の入り口については日中は開放している。	
			(外部評価) 職員は法人で作成された「身体拘束廃止マニュアル」を基に勉強会を行っている。言葉使いについては地元の言葉できつく受け取られるケースもあるので、日常の言葉使いにも気をつけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き、職員で理解している。言葉の虐待もあるので職員同士声を掛け合いながら、注意し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 4月に勉強会を開き新しい職員も含め、全員が理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には重要事項説明を十分行なっている。利用者や家族の不安や疑問を尋ね十分な説明を行い、理解や納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。また、定期的に介護計画確認書を送付し、疑問、要望等を書いて頂き反映できるように努めている。	
			(外部評価) ホームから家族に、利用者の身体状況や生活の様子が分かるように、2か月毎に介護要約を送っている。定期的に送る介護計画と一緒に意見や要望を記入できる用紙を同封している。家族の面会時に職員も一緒に話したり、電話で近況報告行う等、意見や要望を言い易い仕組みや関係作りを行っている。	利用者や家族が安心して利用していけるように、管理者や職員の異動があった時には家族にも報告する等の細やかな配慮がなされ、今以上に信頼関係が構築されることを希望したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で職員の意見を聞き、必要があれば主任会等、施設全体で話し合えるような仕組みになっている。 (外部評価) 月1回職員会があり、その場で意見や要望を言うこともできるが、日々の支援の中で気がついた事や思いを管理者に伝える事ができる環境が整っている。ホーム内で解決できない事は、法人の各事業所代表者が出席する主任会で全体的に話し合える仕組みとなっている。施設長との個別面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 自己評価や、代表者・管理者による面談を行い、一人ひとりの個性や能力の把握に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を確保し、スキルアップを図れるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議を通して相互訪問を行い、情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学の段階から本人とゆっくり話が出来る時間を持ち、本人の思いや不安を汲み取れるようにと努めている。入居後も安心して暮らせるよう寄り添い、コミュニケーションを大事にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面談等で家族が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けながら、信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人様、家族様の希望を聞き、法人全体や、他業種の方々の意見を聞きながら、様々なサービスの選択肢を提供し、一緒に考えるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないように注意し、声掛けや対応を行なっている。料理、園芸、行事などについて、色々助言を頂いたり、一緒に行なう事により、学ぶ事も多く、共に支える関係を築くよう努力してる。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 二ヶ月に一回の便りで状況をお伝えしたり、面会に来られた際に家族様と話し合う機会を設けたりして、一緒に本人様を支える努力をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者様の馴染みの人との関係が途切れないように家族様に協力して頂き、自宅への外出や外泊を行なっている。また、馴染みのある方が訪問しやすい環境に努めている。 (外部評価) 家族や友人など、面会者の訪問時には居室や談話室で、くつろいで話ができる様に配慮している。家族に了解を得たうえで外出の際に職員と一緒に行く事もある。正月・お盆・連休には家族の元で過ごせる様家族と連携しながら支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 移動時の付き添いに一緒に行かれたり、車椅子を押して下さったり、食事・おやつ時に声を掛け合ったりされ、。利用者様同士支え合っている。会話が噛み合わなかったり、気分を損ねたりした時には、職員が仲介している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 住み替えが必要となった場合でも利用者の移り住むことへのダメージを最小限に食い止めるために移り住む先の関係者に対して、本人の状況・習慣・好み・これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え環境や暮らし方の継続性等に配慮してもらえるように働きかけている。サービスが終了した後も相談や支援に応じる姿勢を持つようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を利用して、本人様の希望を聞き入れている。また、本人様から聞けない場合は、家族様と相談したり、利用者様の立場になって検討している。	
			(外部評価) 職員は利用者との日々の関わりの中から、思いや意向を把握し、得た情報や気づきを記録することで職員全員で共有している。思いや意向を表出し難い利用者の中には、表情や態度で汲み取り、家族と相談しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時にアセスメントを行い、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録をこまめにし、把握するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人様や家族様の意見・本人様の状態やスタッフの意見を反映して介護計画を作成している。 (外部評価) 職員は利用者数名を担当として受け持っているが、気付きや情報は申し送りやカンファレンスで共有している。介護計画に沿った支援と記録を行い、モニタリングは毎月、計画の見直しは3か月毎に行い、必要があればその都度行っている。利用者の意向は日々の関わりの中から汲み取る等、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) こまめにケース記録を行い、日中、夜勤間の引継ぎを十分に行なって、情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設ということもありグループホームでの生活困難になった場合には家族様の相談に応じて特別養護老人ホームへの移行を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に来ていただいたり、ご近所の方には行事に参加していただいたりしている。また、散歩に出た時等地域の方とお話していただいたりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 二週間に一回、定期回診を支援している。また、異変時には主治医と家族に聞き、対応している。 (外部評価) 協力医をかかりつけ医としている利用者が多い。専門医の受診は家族が対応しているが、困難な場合は職員が対応している。受診に際しての情報交換や連絡を家族や医師と密に行っている。定期回診は協力医が2週間に1回、協力歯科医は1週間に1回となっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 特別養護老人ホームとの併設のため特養の看護職員に相談したり、診ていただいたりしている。また、二週間に一回の定期回診には、一緒に立ち会って頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院にこまめに面会に行ったり、医師や看護師に状態を聞いたりして、早期退院ができるように医療機関との情報交換に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在は看取りはしていない。重度化した場合は些細なことでも家族に連絡している。 (外部評価) 看取りは行わない事としており、入居時に家族に説明を行っている。重度化した場合は、利用者の状態に応じて家族との連絡や連携、話し合いが行われている。看取りに関して施設内の特養で経験のある職員もいるが、職員は施設内の勉強会や外部の研修にも自由に参加できる仕組みがある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、消防の救急実技の講習を受けるようにしている。緊急時の対応について、マニュアルを見やすい所に貼ってある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを把握し災害時に利用者様が避難できる方法を身につけている。毎月一回避難訓練を実施している。 (外部評価) ホーム内での避難訓練を毎月行う取り組みが始まり、毎回新しい気付きや発見があり、次月の訓練に活かされている。まだ実施には至っていないが、消防署や地域の人を交えてのホーム単独で行う避難訓練計画も作成されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの尊厳を守り、ゆっくと温かい声掛けに心がけている。居室に入る際はノックを行い本人の理解を得て訪室するようにしている。個人情報シュレッダーにかけて注意をはらっている。 (外部評価) 職員は利用者と同じ目線で向き合い、自尊心を傷つけないように言葉使いや対応を心掛けている。女性利用者が入浴介助を同性で希望する場合や、ひとりでの入浴を希望する場合等には、可能な限り希望が叶えられる様支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で出来るだけ本人の気持ちを大切にしている。声掛けも決めつけるような言葉使いはせず、あくまでも本人が納得して決めて頂くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴を毎日希望される方、食事をゆっくり食べられる方、時間がかかっても自力で移動される方など、一人ひとりのペースや希望を大切に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類などは家族に相談して持ってきていただいたり、購入したりしている。また、理・美容は訪問理容師に来ていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 併設の為、献立は栄養士が立てている。準備や片付けは出来る方に手伝っていただいている。畑やプランターで出来た野菜と一緒に料理して季節感を味わっていただいている。一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるよう支援している。	
			(外部評価) 献立は施設全体で栄養士が立てている。利用者の好みや希望は栄養士に伝える事ができる。調理はホームで行い、利用者から調理の仕方を教わる事もある。利用者はできる事を職員と一緒にしている。職員も利用者と一緒にテーブルを囲み同じものを食べている。誕生日にはおやつのリクエストができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で個々の食事量などを把握している。食事量が減ってきている方には食事形態を改善したり、主治医・家族に相談しながら対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行なっている。就寝時には、義歯の洗浄を行ない預かっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導の必要な方には、定期的に声掛けをし、トイレでの排泄を支援している。 (外部評価) オムツ対応は夜間1名のみである。他の利用者については日中、夜間ともトイレでの排泄の支援を行っている。排泄パターンを把握した上で、排泄チェック表を確認し、声かけし誘導している。失敗した時には自尊心を傷つけない様配慮した対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ケアチェック表で排便を確認している。便秘の方には水分摂取、散歩、運動を取り入れたり、主治医に相談したりしながら下剤でもコントロールを行なっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴前にバイタルチェックを行い体調のよい日は、本人様の希望を聞きながら、出来るだけ入浴してもらっている。入浴できない日はシャワー浴・足浴・清拭等、利用者様個々の状態に応じて支援している。夜間帯は事故防止の観点からも実施していない。 (外部評価) 基本は2日に1回となっているが、希望や状態に応じて、声かけを工夫したり、シャワー浴・足浴・清拭・翌日に変更する等臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活のペースで午睡したり、心地よく眠りにつけるよう日中の活動に配慮している。夜間眠れない方には、医師や家族と相談して、眠剤の服用を行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬についての勉強会に参加し、誤薬・服薬忘れのないように気をつけている。一人ひとり個別の袋に入れ、服薬時には、袋の名前と中身を声に出して確認し服薬していただいている。薬の変更時は、申し送りノートを利用し、周知徹底している。薬の保管は、ワーカー室の鍵をかけた棚で行なっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの出来る役割を考えて、掃除・洗濯干し・食事の準備等手伝って頂いている。また、風船バレーやボーリング等、レクリエーションを行い気分転換をしていただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 事業所の中だけで過ごさずに、日常的に外出できるような個別の支援を工夫している。	
			(外部評価) 月1回のスーパーでの買い物や、近隣の足湯等へのドライブは利用者の楽しみになっている。定期的に外泊される利用者の支援はもとより、他の利用者の外出にも気配りがされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人様の希望で少額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも、外出時は、自分で払っていただけるように工夫している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は、本人の希望のある時には支援している。又、携帯電話を持たれている方もいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節がわかるような草花を飾ったり、利用者と一緒に壁飾りなど作成したり、居心地よく過ごせるように、利用者の希望を取り入れている。又、畳の間では、冬はコタツも置かれている。囲碁を楽しんだり、思い思いの場所で過ごしている。 (外部評価) リビングには利用者の手作り作品を展示しているコーナーがある。畳の部屋では隣接するデイサービスの利用者と将棋を楽しむ利用者もいる。中庭では外気浴をしたり、育てている野菜や草花を見ながら、職員と一緒にお茶を楽しむなど思い思いの過ごし方をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにソファ、畳の間があり、それぞれの場所で利用者同士お話しをされたり、職員との会話を楽しまれたりし、交流の場となっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者が安らぎを得るような馴染みのものが、環境作りに欠かせないことを家族に理解してもらい、協力を求める働きかけをしている。 (外部評価) 入居前から使っていた馴染みの物を持ち込んだり、利用者が居心地よく過ごせるように家族が用意した物があり、各々違った居室となっている。居室には冷蔵庫、仏壇、好きなレコードを聞く為のプレーヤー等があったり、ベランダではプランターで野菜作りをしている等様々である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の能力や状況に合わせて環境整備に努めている。状態が変わった時には、その都度職員で話し合い、本人の不安・混乱材料を取り除けるよう支援している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700367
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム 瀬戸あいじゅ
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町川之浜594
自己評価作成日	平成 22 年 6 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年7月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

伊方町の小学校の跡地に建っており、近くに保育園があります。海も近く、自然に囲まれています。平屋のホームなのでユニット間が自由に行き来できて、普段から交流も多くもっています。ホームは、総合福祉施設の中の1事業所であり、これらの施設と合同で、行事がおこなわれたり、随時の看護支援が、得られる等、日常的に連携がとれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海を一望できる高台にある総合福祉施設の1階に、デイサービスと並んで2ユニットのホームがある。両ユニットの利用者は仲が良く、ユニット間を行き来し楽しむ等の交流がある。介護度の軽度の方が多く、できる事は体調等を考慮しながら手伝ってもらい、役割を持って生活している。ホームの取り組みとして、職員と利用者が一緒に同じ食事を摂ることや、運営推進会議の議題の年間計画の作成すること、ホーム独自の避難訓練を行うことなど、新しい取り組みが始まっている。デイサービス利用者との交流を持つなど、総合福祉施設の利点を活かしながら運営が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム瀬戸あいじゅ

(ユニット名) 浜風

記入者(管理者)

氏 名 楠 千鶴江

評価完了日 平成 22年 6月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員で話し合って決めた理念を共有し実践に繋げていけつよう運営推進会議などで地域の方々に理解・協力が得れるように努めている。	
			(外部評価) 職員は毎朝、朝礼で法人の基本理念を唱和している。ホームには、職員で話し合って作られた具体的な理念を掲げ、さらに職員一人ひとりが半期ごとの目標を立て、日々意識できるようスタッフルームに掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的な交流はあまり出来ていないが、施設全体での行事で地域の人との交流がある。	
			(外部評価) 施設全体で行う運動会や夏祭り等の行事には、地元の婦人会や保育所など地域の方の参加が有り、利用者やその家族も参加している。利用者は保育所の芋掘りに参加したり、地域の公園で行われる芋炊きに出かけている。近々地域で行われる“ちりめん祭り”を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 少しずつ家族様には理解していただいているのではないと思われる。地域については、運営推進会議において理解してもらえるよう努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、近況報告を行ったり、取り組みのテーマに沿って話し合ったりして、運営推進委員からの意見、家族の要望など聞いている。それを職員会で報告し、話し合いを行いサービスの向上につなげている。	
			(外部評価) 運営推進会議の議題年間計画を立て、計画的に開催している。会議後には利用者によるハンドベル演奏会や朗読会に参加してもらうなど、出席者がホーム内で利用者と一緒に過ごす時間をつくり、生活の様子を知ってもらうための新しい取り組みを始めている。	運営推進会議への新しい取り組みが、サービスに活かされる事を期待すると共に、会議出席者が固定化されているので、幅広い意見が取り入れられる様にメンバー構成にも着目して欲しい。運営推進会議議事録には、出席者の名前も記入しておくとういのではないかな。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 入居者の入退居や介護認定の更新の際、情報を共有したり、事故防止などの取り組みで、連携を取ったりしている。介護相談員の受け入れや意見交換等も行なっている。	
			(外部評価) 相談のために役場担当課に出向きアドバイスを貰う機会や、運営推進会議で役場担当者から情報提供を受ける機会もあり、円滑に意見交換ができる関係が構築されている。毎月介護相談員の受け入れを行い、利用者とは顔馴染みの関係となっている。介護相談員と役場とホームが情報を共有し連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止マニュアルを作成し皆で取り組んでいる。玄関の入り口については日中は開放している。	
			(外部評価) 職員は法人で作成された「身体拘束廃止マニュアル」を基に勉強会を行っている。言葉使いについては地元の言葉できつく受け取られるケースもあるので、日常の言葉使いにも気をつけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き、職員で理解している。言葉の虐待もあるので職員同士声を掛け合いながら、注意し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 4月に勉強会を開き新しい職員も含め、全員が理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には重要事項説明を十分行なっている。利用者や家族の不安や疑問を尋ね十分な説明を行い、理解や納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。また、定期的に介護計画確認書を送付し、疑問、要望等を書いて頂き反映できるように努めている。	
			(外部評価) ホームから家族に、利用者の身体状況や生活の様子が分かるように、2か月毎に介護要約を送っている。定期的に送る介護計画と一緒に意見や要望を記入できる用紙を同封している。家族の面会時に職員も一緒に話したり、電話で近況報告行う等、意見や要望を言い易い仕組みや関係作りを行っている。	利用者や家族が安心して利用していけるように、管理者や職員の異動があった時には家族にも報告する等の細やかな配慮がなされ、今以上に信頼関係が構築されることを希望したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で職員の意見を聞き、必要があれば主任会等、施設全体で話し合えるような仕組みになっている。 (外部評価) 月1回職員会があり、その場で意見や要望を言うこともできるが、日々の支援の中で気がついた事や思いを管理者に伝える事ができる環境が整っている。ホーム内で解決できない事は、法人の各事業所代表者が出席する主任会で全体的に話し合える仕組みとなっている。施設長との個別面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 自己評価や、代表者・管理者による面談を行い、一人ひとりの個性や能力の把握に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を確保し、スキルアップを図れるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議を通して相互訪問を行い、情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学の段階から本人とゆっくり話が出来る時間を持ち、本人の思いや不安を汲み取れるようにと努めている。入居後も安心して暮らせるよう寄り添い、コミュニケーションを大事にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面談等で家族が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けながら、信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人様、家族様の希望を聞き、法人全体や、他業種の方々の意見を聞きながら、様々なサービスの選択肢を提供し、一緒に考えるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないように注意し、声掛けや対応を行なっている。料理、園芸、行事などについて、色々助言を頂いたり、一緒に行なう事により、学ぶ事も多く、共に支える関係を築くよう努力してる。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 二ヶ月に一回の便りで状況をお伝えしたり、面会に来られた際に家族様と話し合う機会を設けたりして、一緒に本人様を支える努力をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者様の馴染みの人との関係が途切れないように家族様に協力して頂き、自宅への外出や外泊を行なっている。また、馴染みのある方が訪問しやすい環境に努めている。 (外部評価) 家族や友人など、面会者の訪問時には居室や談話室で、くつろいで話ができる様に配慮している。家族に了解を得たうえで外出の際に職員と一緒に行く事もある。正月・お盆・連休には家族の元で過ごせる様家族と連携しながら支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 移動時の付き添いに一緒に行かれたり、車椅子を押して下さったり、食事・おやつ時に声を掛け合ったりされ、。利用者様同士支え合っている。会話が噛み合わなかったり、気分を損ねたりした時には、職員が仲介している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 住み替えが必要となった場合でも利用者の移り住むことへのダメージを最小限に食い止めるために移り住む先の関係者に対して、本人の状況・習慣・好み・これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え環境や暮らし方の継続性等に配慮してもらえるように働きかけている。サービスが終了した後も相談や支援に応じる姿勢を持つようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を利用して、本人様の希望を聞き入れている。また、本人様から聞けない場合は、家族様と相談したり、利用者様の立場になって検討している。	
			(外部評価) 職員は利用者との日々の関わりの中から、思いや意向を把握し、得た情報や気づきを記録することで職員全員で共有している。思いや意向を表出し難い利用者の場合には、表情や態度で汲み取り、家族と相談しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時にアセスメントを行い、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録をこまめにし、把握するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 本人様や家族様の意見・本人様の状態やスタッフの意 見を反映して介護計画を作成している。 (外部評価) 職員は利用者数名を担当として受け持っているが、気 付きや情報は申し送りやカンファレンスで共有してい る。介護計画に沿った支援と記録を行い、モニタリン グは毎月、計画の見直しは3か月毎に行い、必要があ ればその都度行っている。利用者の意向は日々の関わ りの中から汲み取る等、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) こまめにケース記録を行い、日中、夜勤間の引継ぎを 十分に行なって、情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 併設ということもありグループホームでの生活困難に なった場合には家族様の相談に応じて特別養護老人 ホームへの移行を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 運営推進会議に来ていただいたり、ご近所の方には行 事に参加していただいたりしている。また、散歩に出 た時等地域の方とお話していただいたりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 二週間に一回、定期回診を支援している。また、異変時には主治医と家族に聞き、対応している。 (外部評価) 協力医をかかりつけ医としている利用者が多い。専門医の受診は家族が対応しているが、困難な場合は職員が対応している。受診に際しての情報交換や連絡を家族や医師と密に行っている。定期回診は協力医が2週間に1回、協力歯科医は1週間に1回となっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 特別養護老人ホームとの併設のため特養の看護職員に相談したり、診ていただいたりしている。また、二週間に一回の定期回診には、一緒に立ち会って頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院にこまめに面会に行ったり、医師や看護師に状態を聞いたりして、早期退院ができるように医療機関との情報交換に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在は看取りはしていない。重度化した場合は些細なことでも家族に連絡している。 (外部評価) 看取りは行わない事としており、入居時に家族に説明を行っている。重度化した場合は、利用者の状態に応じて家族との連絡や連携、話し合いが行われている。看取りに関して施設内の特養で経験のある職員もいるが、職員は施設内の勉強会や外部の研修にも自由に参加できる仕組みがある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、消防の救急実技の講習を受けるようにしている。緊急時の対応について、マニュアルを見やすい所に貼ってある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを把握し災害時に利用者様が避難できる方法を身につけている。毎月一回避難訓練を実施している。 (外部評価) ホーム内での避難訓練を毎月行う取り組みが始まり、毎回新しい気付きや発見があり、次月の訓練に活かされている。まだ実施には至っていないが、消防署や地域の人を交えてのホーム単独で行う避難訓練計画も作成されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの尊厳を守り、ゆっくりと温かい声掛けに心がけている。居室に入る際はノックを行い本人の理解を得て訪室するようにしている。個人情報シュレッターにかけて注意をはらっている。 (外部評価) 職員は利用者と同じ目線で向き合い、自尊心を傷つけないように言葉使いや対応を心掛けている。女性利用者が入浴介助を同性で希望する場合や、ひとりでの入浴を希望する場合等には、可能な限り希望が叶えられる様支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で出来るだけ本人の気持ちを大切にしている。声掛けも決めつけるような言葉使いはせず、あくまでも本人が納得して決めて頂くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴を毎日希望される方、食事をゆっくり食べられる方、時間がかかっても自力で移動される方など、一人ひとりのペースや希望を大切に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類などは家族に相談して持ってきていただいたり、購入したりしている。また、理・美容は訪問理容師に来ていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 併設の為、献立は栄養士が立てている。準備や片付けは出来る方に手伝っていただいている。畑やプランターで出来た野菜と一緒に料理して季節感を味わっていただいている。一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるよう支援している。 (外部評価) 献立は施設全体で栄養士が立てている。利用者の好みや希望は栄養士に伝える事ができる。調理はホームで行い、利用者から調理の仕方を教わる事もある。利用者はできる事を職員と一緒にしている。職員も利用者と一緒にテーブルを囲み同じものを食べている。誕生日にはおやつのリクエストができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で個々の食事量などを把握している。食事量が減ってきている方には食事形態を改善したり、主治医・家族に相談しながら対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行なっている。就寝時には、義歯の洗浄を行ない預かっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握しトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。失敗した時でも、本人が気付かないように配慮しながら対応している。	
			(外部評価) オムツ対応は夜間1名のみである。他の利用者については日中、夜間ともトイレでの排泄の支援を行っている。排泄パターンを把握した上で、排泄チェック表を確認し、声かけし誘導している。失敗した時には自尊心を傷つけない様配慮した対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ケアチェック表で排便を確認している。便秘の方には水分摂取、散歩、運動を取り入れたり、主治医に相談したりしながら下剤でもコントロールを行なっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴前にバイタルチェックを行い体調のよい日は、本人様の希望を聞きながら、出来るだけ入浴してもらっている。入浴できない日はシャワー浴・足浴・清拭等、利用者様個々の状態に応じて支援している。夜間帯は事故防止の観点からも実施していない。	
			(外部評価) 基本は2日に1回となっているが、希望や状態に応じて、声かけを工夫したり、シャワー浴・足浴・清拭・翌日に変更する等臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活のペースで午睡したり、心地よく眠りにつけるよう日中の活動に配慮している。夜間眠れない方には、医師や家族と相談して、眠剤の服用を行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬についての勉強会に参加し、誤薬・服薬忘れのないように気をつけている。一人ひとり個別の袋に入れ、服薬時には、袋の名前と中身を声に出して確認し服薬していただいている。薬の変更時は、申し送りノートを利用し、周知徹底している。薬の保管は、ワーカー室の鍵をかけた棚で行なっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 自分らしく暮らせるよう、一人ひとりに合った役割や楽しみ、気分転換の支援に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 事業所の中だけで過ごさずに、日常的に外出できるような個別の支援を工夫している。 (外部評価) 月1回のスーパーでの買い物や、近隣の足湯等へのドライブは利用者の楽しみになっている。定期的に外泊される利用者の支援はもとより、他の利用者の外出にも気配りがされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人様の希望で少額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも、外出時は、自分で払っていただけるように工夫している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は、本人の希望のある時には支援している。又、携帯電話を持たれている方もいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が集まるリビングはソファを用意し、テレビを観たりお話しが出来るようにしている。季節が分かるような草花を飾ったり、利用者と一緒に壁飾りを作成したりして、居心地良く過ごせるように工夫している。 (外部評価) リビングには利用者の手作り作品を展示しているコーナーがある。畳の部屋では隣接するデイサービスの利用者と将棋を楽しむ利用者もいる。中庭では外気浴をしたり、育てている野菜や草花を見ながら、職員と一緒にお茶を楽しむなど思い思いの過ごし方をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テレビ前や談話室のソファで気のあった利用者同士で思い思いに過ごせるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者が安らぎを得るような馴染みのものが、環境作りに欠かせないことを家族に理解してもらい、協力を求める働きかけをしている。 (外部評価) 入居前から使っていた馴染みの物を持ち込んだり、利用者が居心地よく過ごせるように家族が用意した物があり、各々違った居室となっている。居室には冷蔵庫、仏壇、好きなレコードを聞く為のプレーヤー等があったり、ベランダではプランターで野菜作りをしている等様々である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の能力や状況に合わせて環境整備に努めている。状態が変わった時には、その都度職員で話し合い、本人の不安・混乱材料を取り除けるよう支援している。	